

平成31年度
(2019)

履 修 要 綱

昭和音楽大学
大学院音楽研究科(修士課程)

平成31年度
(2019年度)

履修要綱

この履修要綱は、修了するまでの間の履修について定めたものです。

修了まで大切に保管し、熟読してください。

目次

1	人材養成目的	2
2	研究計画書等の提出について	3
3	修士論文または修士研究について	4
4	成績評価	4
5	修了要件	5
6	学位審査について	5
7	学位について	5
8	教育職員免許状(専修免許状)の取得について	5
9	日本語科目について	6
10	音楽研究科教育課程・履修例	7

1 人材養成目的

音楽研究科 修士課程 人材養成目的	
<p>音楽とその関連分野における高度な専門教育を行う。専門領域での実践・研究によって専門分野に貢献し、文化・社会の発展に寄与する人材を育成することを目指す。また、国際的な活動を視野に入れ、その基礎となるコミュニケーション能力を培い、他と和してひとつのものを作り上げるアンサンブル力を養っていく。</p>	

専攻	人材養成目的
音楽芸術表現専攻 オペラ 声楽研究 ピアノ 弦・管・打楽器 電子オルガン 作曲 指揮	<p>音楽芸術表現専攻は、音楽を通して自己を表現する優れた人材を養成し、演奏・創作およびその関連分野における高度な専門教育を行う。</p> <p>学生の専門とする分野に応じ、実践的な研究を通じて、国際的な活動を視野に入れた声楽、器楽のソロ演奏、室内楽、伴奏等の演奏家や作曲家、指揮者、専門技術とコミュニケーション能力をあわせ持つ優れた指導者を育てる。</p>
音楽芸術運営専攻 アートマネジメント 音楽療法	<p>本学の音楽芸術運営専攻は、音楽に関する知識・技能を応用することで、広く社会や人々に貢献する優れた人材を養成し、実践・研究およびその関連分野における高度な専門教育を行う。</p> <p>アートマネジメントにおいては、国際的な活動を視野に入れ、芸術文化活動の担い手となる実務家や研究者を育てる。</p> <p>音楽療法においては、高度な専門的能力を発揮し、医療・福祉・教育等の分野における実践や研究を通して社会に貢献できる人材を育てる。</p>

2 研究計画書等の提出について

大学院音楽研究科修士課程では、毎学年度に自らの「研究計画」を作成し、それに従って研究を行っていかねばなりません。これは、学校教育法に基づく「大学院設置基準」、および本学「大学院規則」に定められています。この「研究計画書」に加え、本学では、「ポートフォリオ」と「修士論文・修士研究執筆計画書」を、毎学年度のはじめに、所定の形式で所定の期日までに提出する必要があります。

①「研究計画書」(大学院1年次・2年次)

大学院における研究テーマ(修士課程2年間を通じて研究したいと考えているテーマ)、および本年度の具体的な研究計画(当該年次の1年間、自分が課題として取り組むこと)

②「ポートフォリオ」(大学院1年次・2年次)

専攻分野に関する研究・研鑽の実績(これまでの活動歴・受賞歴等)

③「修士論文・修士研究執筆計画書」(論文執筆学年のみ)

修士論文または修士研究の題目、および当該年度の具体的な執筆計画

「①」・「②」は専攻実技等の指導教員、「③」は修士論文または修士研究の指導教員と相談の上作成し、その承諾のサインを得る必要があります。これらを作成する目的は、

- ・ 学生各自が、自身の研究や勉学についての明確なビジョンを持つ
- ・ 各学生と指導教員との密な協力体制を作る
- ・ 大学院での研究・勉学を、卒業後のキャリアデザインに生かすことです。

各自、研究計画書に基づいて、指導教員らと密接にコミュニケーションを図り、修士課程での学びをより充実したものとするように心がけてください。詳しくは、ガイダンス時に説明しますので、その指示に従ってください。

3 修士論文または修士研究について

大学院での学びの総仕上げとして、第2年次には「修士論文」または「修士研究」の執筆が義務付けられています。「修士論文」または「修士研究」を提出した者は、その内容についての審査を受けなければなりません。さらに、「修士論文」については、中間発表、および論文の内容に関することを中心とする口頭試問を受ける必要があります。

【音楽芸術表現専攻の場合】

執筆に当たっては、2年次に履修する「課題研究Ⅰ」（修士論文選択の場合）または「課題研究Ⅱ」、「課題研究Ⅲ」（修士研究を選択の場合）の授業内で指導を受けます。

【音楽芸術運営専攻の場合】

「音楽芸術運営特別演習」の授業の一環として、それぞれ修士論文を執筆します。

また、1年次から、数度にわたって修士論文または修士研究に関するガイダンスを行いますので、そのすべてに必ず出席してください。執筆・提出に関する詳細は、このガイダンス、および専攻ごとに配付する修士論文執筆マニュアルで発表されますので、それに従ってください。

【修士論文に関するスケジュールの概要】

(年度ごとの詳細なスケジュールは、年度当初のガイダンスで発表する)

4月上旬	修士論文題目(和文・英文)の提出 *以後題目を変更する際には、「題目変更届」の提出が必要となる
9月～10月頃	修士論文中間発表
12月下旬 (年内の最終授業日)	論文提出
1月	論文審査・最終試験

4 成績評価

- ① 成績評価基準は、S(100～90点)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・F(59点以下)とし、C以上を合格として単位を認定する。Fは不合格とする。
- ② また、S(4ポイント)・A(3ポイント)・B(2ポイント)・C(1ポイント)・F(0ポイント)として、単位当たりの成績評価の平均値を示すGPA(グレードポイントアベレージ)を算出する。
なお、修了判定時にGPAを基準のひとつとして判定を行う。
- ③ 成績評価方法については、各授業科目によって異なるのでシラバスによって明示する。

5 修了要件

修士課程音楽芸術表現専攻の修了要件は、本課程に2年以上在学し、32単位以上を修得し、実技修了試験に合格し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文または修士研究の審査及び試験に合格することである。

修士課程音楽芸術運営専攻の修了要件は、本課程に2年以上在学し、32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査及び試験に合格することである。

6 学位審査について

学位審査は、昭和音楽大学大学院規則ならびに昭和音楽大学学位規則に則って行われる。

研究科長は、修士論文または修士研究の提出があった場合は、研究科委員会にその審査を依頼し、研究科委員会は、その依頼に基づき、その専攻分野の教授および関連科目担当の中から2名以上を審査員として、学位論文等の審査を行う。

試験は、学位論文等審査の終了後に、学位論文等を中心として、その関連する分野について口述又は筆記により行うものとする。

研究科委員会は、当該大学院学生の修得単位並びに学位論文等の審査及び試験の結果に基づき、その者の課程修了の認定について審査し、研究科長は、その結果を学長に報告する。

学長は、課程修了の認定をされた者に対し、修士の学位を授与する。

7 学位について

「昭和音楽大学学位規則」の定めるところにより、本学修士課程で授与される学位は以下の通り。

学位の名称	音楽芸術表現専攻の場合：	修士(音楽) Master of Music
	音楽芸術運営専攻の場合：	修士(芸術) Master of Arts

8 教育職員免許状(専修免許状)の取得について

※ 取得手続きや詳細については、教職課程ハンドブック及び、修了年次に開催される一括申請ガイダンスにて確認してください。また、6月頃に行われるガイダンスで配付される教育職員免許状一括申請要領を参照してください。

9 日本語科目について

大学院音楽研究科修士課程では、主に留学生を対象とした日本語科目を開講している。これは、日本語能力および高度なプレゼンテーション能力の向上、日本語の原著講読実践の機会の提供等を目的とした科目であり、修士論文、修士研究を補完する授業である。従って留学生は各自のレベル、目的に合った履修をすること。

			科目名	単位
きょうつう かもく 科目	ねん 1年	必修	西洋音楽史特殊講義	2※
		選択	実践中級日本語研究Ⅰ	3※
			実践中級日本語研究Ⅱ	1※
			実践中級日本語研究Ⅲ	1※
			実践中級日本語研究Ⅳ	3※
			実践中級日本語研究Ⅴ	1※
			実践中級日本語研究Ⅵ	1※
			実践上級日本語研究Ⅰ	1※
			実践上級日本語研究Ⅱ	1※
		せんもん 専門	ねん 2年	選択
原典講読研究Ⅱ	2※			
せんもん 専門	ねん 2年	選択	課題研究Ⅲ	1※

【注意事項】

- 単位に※印が付いている科目は半期(前期または後期)のみで履修が終る科目
- コースによって開講していない科目もあるので注意すること。
- 実践中級日本語研究Ⅰ・Ⅳは週に各3回授業があるので、注意すること。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。(2年次以降も履修可)
- 他の必修科目と重複する場合は、日本語科目を優先することが望ましい。
- 日本語科目の履修は、1年次だけでなく、2年次にも継続的に履修することが望ましい。

日本語科目の履修については、次の要件を満たさなくてはならない。

<履修できる学生> 留学生・母語が日本語ではない学生・帰国子女等、日常で日本語を使用する機会が少なかった学生。

履修にあたっては各自で判断し、日本語クラス分け試験を受験すること。

<履修方法> プレイメントテストを受験し、指定された科目を履修すること。

10 音樂研究科教育課程・履修例

音楽芸術表現専攻(オペラ)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。
 具体的には、

- ・ オペラの試演会や声楽の実技試験などを通して、入学時に比べてより高度の歌唱技術、オペラ公演に必要な優れた表現能力が身についたことが確認されること
- ・ オペラに関連した広範な知識と教養を得たことが、試験により確認されること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。
 その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

オペラの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。
 最も重要なのは、オペラ公演に必要な応用力を培うための総合的なグループ指導を受けると同時に、声楽の個人レッスンを受けることによって、様々なスタイルのオペラに対応できる歌唱技術を身につけることである。
 さらにオペラを総合的に修得するために、舞台表現法などを学ぶ。
 また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るべく修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

必修(専門)	音楽芸術表現実技(声楽)①	4
	音楽芸術表現実技(声楽)②	4
必修(共通)	音楽研究法基礎	1
	西洋音楽史特殊講義	2
↓		
選択必修(専門)	課題研究Ⅱ(修士研究)	1
↓		
コース必修(専門)	オペラ特別演習①	4
	オペラ特別演習②	4
	舞台発声研究(伊語)Ⅰ	1
	舞台発声研究(伊語)Ⅱ	1
↓		
コース選択必修(専門)	舞台発声研究(仏語)Ⅰ	1
	舞台発声研究(独語)Ⅰ	1
↓		
コース選択(専門)	舞台表現テクニック研究Ⅰ	1
	舞台表現テクニック研究Ⅱ	1
	声楽アンサンブル特別研究Ⅰ	2
↓		
選択(共通)	作品研究特殊講義Ⅰ	2
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ	2
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ	2
	実践伊語研究①	1
	実践伊語研究②	1
↓ ↓ ↓		
修了要件	32単位以上	36

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であることを必須条件とする。詳細は「課題研究の手引き」を参照すること。

【実技試験注意事項】

課題曲、演奏時間は次のとおりとする。

1年次 オペラアリア中心のプログラム
 15分以内(歌曲・オラトリオを含む)

2年次 オペラアリア中心のプログラム
 20分以内(歌曲・オラトリオを含む)

音楽芸術表現専攻(オペラ)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目	○	音楽芸術表現実技(声楽)①	4						
	○	音楽芸術表現実技(声楽)②				4			
		オペラ特別演習①	4						
		オペラ特別演習②				4			
		舞台発声研究(伊語) I	1※						
		舞台発声研究(伊語) II	1※						
		舞台発声研究(仏語) I		1※					2科目のうちどちらか1科目 選択必修
		舞台発声研究(独語) I		1※					
	○	課題研究 I (修士論文)					2		3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり(左ページ参照)
	○	課題研究 II (修士研究)					1※		
		課題研究 III (修士研究)					1※		
	○	歌曲特別演習①			4				
		舞台表現テクニック研究 I			1※				
		舞台表現テクニック研究 II			1※				
		声楽アンサンブル特別研究 I			2				
		声楽アンサンブル特別研究 II						2	
		オペラ台本特別研究 I			1※				
		オペラ台本特別研究 II			1※				
		舞台発声研究(仏語) II			1※				
		舞台発声研究(独語) II			1※				
	学外実習研究①			1					
共通科目		音楽研究法基礎	1※						
	○	西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究②						1	
		音楽と学術研究 I			1※				
		音楽と学術研究 II			1※				
		ピリオド演奏研究 I			2※				
		ピリオド演奏研究 II			2※				
	○	作品研究特殊講義 I			2※				
	○	作品研究特殊講義 II			2※				
	○	作品研究特殊講義 III			2※				
	○	作品研究特殊講義 IV			2※				
	○	西洋音楽史研究 I			2※				
	○	西洋音楽史研究 II			2※				
	○	西洋音楽史研究 III			2※				
	○	西洋音楽史研究 IV			2※				
	○	音楽指導論特殊講義			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義 I			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義 II			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 I			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 II			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 III			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 IV			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 V			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 VI			2※				
		実践英語研究①			1※				
		実践英語研究②			1※				
		実践伊語研究①			1※				
		実践伊語研究②			1※				
	○	原典講読研究 I			2※				
	○	原典講読研究 II			2※				
		海外特別研修①			1				
		海外特別研修②						1	
		実践中級日本語研究 I			3※				指定された者のみ履修可 (6ページ参照)
	実践中級日本語研究 II			1※					
	実践中級日本語研究 III			1※					
	実践中級日本語研究 IV			3※					
	実践中級日本語研究 V			1※					
	実践中級日本語研究 VI			1※					
	実践上級日本語研究 I			1※					
	実践上級日本語研究 II			1※					
	実践上級日本語研究 III			1※					

音楽芸術表現専攻(声楽研究)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。
 具体的には、

- ・ 声楽の実技試験を通して、入学時に比べてより高度の歌唱技術、優れた表現力が身についたことが確認できること
- ・ 声楽に関連した広範な知識と教養を得たことが、試験により確認できること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。
 その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

声楽の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。
 最も重要なのは、伊、独、仏、西、日の各言語による歌曲の個人レッスンを受けることによって、様々な様式の声楽曲に対応できる歌唱技術を身につけることである。さらに、声楽と声楽作品について広範な知識や表現方法を修得する。
 また、音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るべく、修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

必修(専門)	音楽芸術表現実技(声楽)①	4
	音楽芸術表現実技(声楽)②	4
必修(共通)	音楽研究法基礎	1
	西洋音楽史特殊講義	2
↓		
選択必修(専門)	課題研究Ⅰ(修士論文)	2
↓		
コース必修 (専門)	歌曲特別演習①	4
	歌曲特別演習②	4
	声楽アンサンブル特別研究Ⅰ	2
↓		
コース選択必修 (専門)	舞台発声研究(伊語)Ⅰ	1
	舞台発声研究(仏語)Ⅰ	1
	舞台発声研究(独語)Ⅰ	1
↓		
コース選択 (専門)	オペラ特別演習①	4
	舞台表現テクニック研究Ⅰ	1
	声楽アンサンブル特別研究Ⅱ	2
↓		
選択(共通)	作品研究特殊講義Ⅰ	2
	西洋音楽史研究Ⅱ	2
↓ ↓ ↓		
修了要件	32単位以上	37

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であることを必須条件とする。詳細は「課題研究の手引き」を参照すること。

【実技試験注意事項】

- 1年次 歌曲・オラトリオ中心のプログラム
15分以内(オペラアリアを含む)
- 2年次 歌曲・オラトリオ中心のプログラム
20分以内(オペラアリアを含む)

音楽芸術表現専攻(声楽研究)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目	○	音楽芸術表現実技(声楽)①	4						
	○	音楽芸術表現実技(声楽)②				4			
	○	歌曲特別演習①	4						
	○	歌曲特別演習②				4			
		声楽アンサンブル特別研究 I	2						
		舞台発声研究(仏語) I		1※					3科目の中から1科目選択必修
		舞台発声研究(独語) I		1※					
		舞台発声研究(伊語) I		1※					
	○	課題研究 I (修士論文)					2		3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり (左ページ参照)
	○	課題研究 II (修士研究)					1※		
		課題研究 III (修士研究)					1※		
		オペラ特別演習①			4				
		舞台表現テクニック研究 I			1※				
		声楽アンサンブル特別研究 II						2	
		舞台発声研究(仏語) II			1※				
		舞台発声研究(独語) II			1※				
	舞台発声研究(伊語) II			1※					
	学外実習研究①			1					
共通科目		音楽研究法基礎	1※						
	○	西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究②					1		
		音楽と学術研究 I			1※				
		音楽と学術研究 II			1※				
		ピリオド演奏研究 I			2※				
		ピリオド演奏研究 II			2※				
	○	作品研究特殊講義 I			2※				
	○	作品研究特殊講義 II			2※				
	○	作品研究特殊講義 III			2※				
	○	作品研究特殊講義 IV			2※				
	○	西洋音楽史研究 I			2※				
	○	西洋音楽史研究 II			2※				
	○	西洋音楽史研究 III			2※				
	○	西洋音楽史研究 IV			2※				
	○	音楽指導論特殊講義			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義 I			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義 II			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 I			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 II			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 III			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 IV			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 V			2※				
		音楽マネジメント特殊講義 VI			2※				
		実践英語研究①			1※				
		実践英語研究②			1※				
		実践伊語研究①			1※				
		実践伊語研究②			1※				
	○	原典講読研究 I			2※				
	○	原典講読研究 II			2※				
		海外特別研修①			1				
		海外特別研修②					1		
	実践中級日本語研究 I			3※				指定された者のみ履修可 (6ページ参照)	
	実践中級日本語研究 II			1※					
	実践中級日本語研究 III			1※					
	実践中級日本語研究 IV			3※					
	実践中級日本語研究 V			1※					
	実践中級日本語研究 VI			1※					
	実践上級日本語研究 I			1※					
	実践上級日本語研究 II			1※					
	実践上級日本語研究 III			1※					

音楽芸術表現専攻(ピアノ)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・ ピアノの実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ピアニスト、または室内楽奏者や伴奏者、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・ ピアノ演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力や伴奏能力を獲得したことが確認できること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

ピアノの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。

最も重要なのは、徹底した個人レッスンを通して、ピアノ演奏を技術と表現方法の両面から深く研究し、高い演奏技術と表現力を獲得することである。さらに小規模編成や大規模編成の合奏および伴奏能力の向上に努めるとともに、指導者としての能力を身につけることで、社会の多様なニーズに対応できる即戦力の養成を目指す。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るべく修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

	(例1)演奏家を目指す	(例2)指導者を目指す	(例3)伴奏者を目指す
必修(専門)	音楽芸術表現実技(ピアノ)① 4 音楽芸術表現実技(ピアノ)② 4	音楽芸術表現実技(ピアノ)① 4 音楽芸術表現実技(ピアノ)② 4	音楽芸術表現実技(ピアノ)① 4 音楽芸術表現実技(ピアノ)② 4
必修(共通)	音楽研究法基礎 1 西洋音楽史特殊講義 2	音楽研究法基礎 1 西洋音楽史特殊講義 2	音楽研究法基礎 1 西洋音楽史特殊講義 2
選択必修(専門)	課題研究Ⅱ 1	課題研究Ⅰ 2	課題研究Ⅱ 1
コース選択(専門)	室内楽特別演習① 2 室内楽特別演習② 2 合奏特別演習① 2 合奏特別演習② 2	合奏特別演習① 2 合奏特別演習② 2 指導法特別演習 2	室内楽特別演習① 2 室内楽特別演習② 2 合奏特別演習① 2 ピアノ伴奏研究① 2 ピアノ伴奏研究② 2
選択(共通)	学外実習研究① 1 学外実習研究② 1 ピリオド演奏研究Ⅰ 2 ピリオド演奏研究Ⅱ 2 作品研究特殊講義Ⅲ 2 西洋音楽史研究Ⅳ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ 2 実践英語研究① 1 実践英語研究② 1	作品研究特殊講義Ⅲ 2 作品研究特殊講義Ⅳ 2 西洋音楽史研究Ⅰ 2 西洋音楽史研究Ⅱ 2 西洋音楽史研究Ⅲ 2 西洋音楽史研究Ⅳ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ 2	学外実習研究① 1 学外実習研究② 1 ピリオド演奏研究Ⅰ 2 ピリオド演奏研究Ⅱ 2 作品研究特殊講義Ⅰ 2 実践英語研究① 1 実践英語研究② 1 実践伊語研究① 1 実践伊語研究② 1
修了要件	32単位以上 34	32単位以上 35	32単位以上 34

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であることを必須条件とする。詳細は「課題研究の手引き」を参照すること。

【実技試験注意事項】

- ・ 演奏時間は次のとおりとする。それぞれの試験課題曲については、その都度発表する。
1年次 15～30分
2年次 20～40分
- ・ 聴講必修として定められた講演・講座に3回以上出席していない場合は実技試験の受験資格を失う。

音楽芸術表現専攻(ピアノ)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目	○	音楽芸術表現実技(ピアノ)①	4						
	○	音楽芸術表現実技(ピアノ)②				4			
	○	課題研究Ⅰ(修士論文)					2		3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり (左ページ参照)
	○	課題研究Ⅱ(修士研究)					1※		
		課題研究Ⅲ(修士研究)					1※		
		室内楽特別演習①			2				
		室内楽特別演習②						2	
		合奏特別演習①			2				
		合奏特別演習②						2	
	○	指導法特別演習			2				
	○	ピアノ伴奏研究①			2				
	○	ピアノ伴奏研究②						2	
		舞台発声研究(仏語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(仏語)Ⅱ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅱ			1※				
		声楽アンサンブル特別研究Ⅰ			2				
		声楽アンサンブル特別研究Ⅱ						2	
	学外実習研究①			1					
共通科目		音楽研究法基礎	1※						
	○	西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究②						1	
		音楽と学術研究Ⅰ			1※				
		音楽と学術研究Ⅱ			1※				
		ピリオド演奏研究Ⅰ			2※				
		ピリオド演奏研究Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅰ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅲ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅳ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅰ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅱ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅲ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅳ			2※				
	○	音楽指導論特殊講義			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2※				
		実践英語研究①			1※				
		実践英語研究②			1※				
		実践伊語研究①			1※				
		実践伊語研究②			1※				
	○	原典講読研究Ⅰ			2※				
	○	原典講読研究Ⅱ			2※				
		海外特別研修①			1				
		海外特別研修②						1	
	実践中級日本語研究Ⅰ			3※				指定された者のみ履修可 (6ページ参照)	
	実践中級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅲ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅳ			3※					
	実践中級日本語研究Ⅴ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅵ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅰ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅲ			1※					

音楽芸術表現専攻(弦・管・打楽器)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・ 専攻楽器の実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ソリスト、またはオーケストラや吹奏楽、室内楽奏者、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・ 専攻楽器の演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力を獲得したことが確認できること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

弦・管・打楽器の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。

最も重要なのは、専攻楽器の徹底した個人レッスンを通して、高い演奏技術と表現力を獲得することである。さらに小規模編成や大規模編成についての高度な合奏能力を養うと同時に、専攻楽器の指導のための実践的な技術や知識を身につける。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

	(例1)演奏家を目指す	(例2)指導者を目指す
必修(専門)	音楽芸術表現実技(弦管打)① 4	音楽芸術表現実技(弦管打)① 4
	音楽芸術表現実技(弦管打)② 4	音楽芸術表現実技(弦管打)② 4
必修(共通)	音楽研究法基礎 1	音楽研究法基礎 1
	西洋音楽史特殊講義 2	西洋音楽史特殊講義 2
	↓	↓
選択必修(専門)	課題研究Ⅱ 1	課題研究Ⅰ 2
	↓	↓
コース必修(専門)	室内楽特別演習① 2	室内楽特別演習① 2
	合奏特別演習① 2	合奏特別演習① 2
	オーケストラ・スタディ特別演習① 2	オーケストラ・スタディ特別演習① 2
	↓	↓
コース選択(専門)	室内楽特別演習② 2	室内楽特別演習② 2
	合奏特別演習② 2	合奏特別演習② 2
	オーケストラ・スタディ特別演習② 2	
	↓	↓
選択(共通)	学外実習研究① 1	ピリオド演奏研究① 2
	学外実習研究② 1	作品研究特殊講義Ⅱ 2
	ピリオド演奏研究① 2	西洋音楽史研究Ⅰ 2
	ピリオド演奏研究② 2	西洋音楽史研究Ⅱ 2
	西洋音楽史研究Ⅰ 2	音楽指導論特殊講義 2
	作品研究特殊講義Ⅱ 2	実践英語研究① 1
		実践英語研究② 1
	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓
修了要件	32単位以上 34	32単位以上 35

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であることを必須条件とする。詳細は「課題研究の手引き」を参照すること。

【実技試験注意事項】

- ・ 演奏時間は次のとおりとする。
 - 1年次：15分以内(チューニング等準備の時間を含む)
 - 2年次：「修士論文」+修了試験30分程度
 - ：「修士研究」+修了試験45分以内

音楽芸術表現専攻(弦・管・打楽器)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目		音楽芸術表現実技(弦管打)①	4						
		音楽芸術表現実技(弦管打)②				4			
		室内楽特別演習①	2						
		合奏特別演習①	2						
		オーケストラ・スタディ特別演習①	2						
	○	課題研究Ⅰ(修士論文)					2		3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり (左ページ参照)
	○	課題研究Ⅱ(修士研究)					1※		
		課題研究Ⅲ(修士研究)					1※		
		室内楽特別演習②						2	
		合奏特別演習②						2	
		オーケストラ・スタディ特別演習②						2	
		舞台発声研究(仏語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(仏語)Ⅱ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅱ			1※				
		学外実習研究①			1				
共通科目		音楽研究法基礎	1※						
	○	西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究②						1	
		音楽と学術研究Ⅰ			1※				
		音楽と学術研究Ⅱ			1※				
		ピリオド演奏研究Ⅰ			2※				
		ピリオド演奏研究Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅰ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅲ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅳ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅰ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅱ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅲ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅳ			2※				
	○	音楽指導論特殊講義			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2※				
		実践英語研究①			1※				
		実践英語研究②			1※				
		実践伊語研究①			1※				
		実践伊語研究②			1※				
	○	原典講読研究Ⅰ			2※				
	○	原典講読研究Ⅱ			2※				
		海外特別研修①			1				
		海外特別研修②						1	
		実践中級日本語研究Ⅰ			3※				指定された者のみ履修可 (6ページ参照)
	実践中級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅲ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅳ			3※					
	実践中級日本語研究Ⅴ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅵ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅰ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅲ			1※					

音楽芸術表現専攻(電子オルガン)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・ 電子オルガンの実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ソリストまたはアンサンブルのプレイヤー、および指導者として将来活躍できる可能性があると認められること
- ・ 電子オルガンの演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力を獲得したことが確認できること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

電子オルガンの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。

最も重要なのは、徹底した個人レッスンを通して、高い演奏技術や表現法を獲得することである。さらに、さまざまな形態の合奏の研究・実践ならびに、指導のための実践的研究を行う。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

	(例1) 演奏家を目指す	(例2) 指導者を目指す
必修(専門)	音楽芸術表現実技(電子オルガン)① 4	音楽芸術表現実技(電子オルガン)① 4
	音楽芸術表現実技(電子オルガン)② 4	音楽芸術表現実技(電子オルガン)② 4
必修(共通)	音楽研究法基礎 1	音楽研究法基礎 1
	西洋音楽史特殊講義 2	西洋音楽史特殊講義 2
	↓	↓
選択必修(専門)	課題研究Ⅱ 1	課題研究Ⅰ 2
	↓	↓
コース選択(専門)	合奏特別演習① 2	指導法特別演習 2
	合奏特別演習② 2	(電子オルガン特別講義)
	室内楽特別演習① 2	合奏特別演習① 2
	室内楽特別演習② 2	合奏特別演習② 2
	↓	↓
選択(共通)	学外実習研究① 1	学外実習研究① 1
	学外実習研究② 1	学外実習研究② 1
	作品研究特殊講義Ⅱ 2	作品研究特殊講義Ⅱ 2
	作品研究特殊講義Ⅳ 2	作品研究特殊講義Ⅳ 2
	西洋音楽史研究Ⅲ 2	西洋音楽史研究Ⅱ 2
	西洋音楽史研究Ⅳ 2	西洋音楽史研究Ⅲ 2
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ 2	西洋音楽史研究Ⅳ 2
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ 2	音楽指導論特殊講義 2
	実践英語研究① 1	実践英語研究① 1
		実践英語研究② 1
	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓
修了要件	32単位以上	32単位以上
	35	35

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であることを必須条件とする。詳細は「課題研究の手引き」を参照すること。

【実技試験注意事項】

- ・ 演奏時間は次のとおりとする。
1年次 : 15～20分
2年次 : 20～30分

音楽芸術表現専攻(電子オルガン)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目		音楽芸術表現実技(電子オルガン)①	4						
		音楽芸術表現実技(電子オルガン)②				4			
	○	課題研究Ⅰ(修士論文)					2		3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり (左ページ参照)
	○	課題研究Ⅱ(修士研究)					1※		
		課題研究Ⅲ(修士研究)					1※		
		電子オルガン特別講義			2※				
		室内楽特別演習①			2				
		室内楽特別演習②						2	
		合奏特別演習①			2				
		合奏特別演習②						2	
	○	指導法特別演習			2				
		舞台発声研究(仏語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(仏語)Ⅱ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅱ			1※				
		学外実習研究①			1				
共通科目		音楽研究法基礎	1※						
	○	西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究②						1	
		音楽と学術研究Ⅰ			1※				
		音楽と学術研究Ⅱ			1※				
		ピリオド演奏研究Ⅰ			2※				
		ピリオド演奏研究Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅰ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅲ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅳ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅰ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅱ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅲ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅳ			2※				
	○	音楽指導論特殊講義			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2※				
		実践英語研究①			1※				
		実践英語研究②			1※				
		実践伊語研究①			1※				
		実践伊語研究②			1※				
	○	原典講読研究Ⅰ			2※				
	○	原典講読研究Ⅱ			2※				
		海外特別研修①			1				
		海外特別研修②						1	
	実践中級日本語研究Ⅰ			3※				指定された者のみ履修可 (6ページ参照)	
	実践中級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅲ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅳ			3※					
	実践中級日本語研究Ⅴ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅵ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅰ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅲ			1※					

音楽芸術表現専攻(作曲)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・ 作品審査を通して、入学時に比べてより高度の作曲技術を身につけ、芸術音楽の作曲家として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・ 作品の創作や分析についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

作曲の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。

最も重要なのは、徹底した個人レッスンを通して、個性を伸ばし、音楽的感性を備えた専門性の高い作品を作る能力を養うことである。さらに、緻密で構築度の高い作曲技法の研究を行うことで、高度な分析能力を身につける。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、創作することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

必修(専門)	音楽芸術表現実技(作曲)①	4
	音楽芸術表現実技(作曲)②	4
必修(共通)	音楽研究法基礎	1
	西洋音楽史特殊講義	2
↓		
選択必修 (専門)	課題研究 I	2
↓		
コース必修 (専門)	楽曲分析特殊講義	4
↓		
コース選択 (専門)	室内楽特別演習①	2
	室内楽特別演習②	2
	ピアノ実技演習①	3
	ピアノ実技演習②	3
	電子音響制作特別演習	2
↓		
選択(共通)	ピリオド演奏研究 I	2
	ピリオド演奏研究 II	2
	西洋音楽史研究IV	2
	実践英語研究①	1
	実践英語研究②	1
↓↓↓		
修了要件	32単位以上	37

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究 I・II・III」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であることを必須条件とする。詳細は「課題研究の手引き」を参照すること。

【実技試験注意事項】

- ① 提出作品の課題は毎年度、前期中に掲示にて発表する。
- ② 提出作品は、未発表のものに限る。

音楽芸術表現専攻(作曲)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目		○ 音楽芸術表現実技(作曲)①	4						
		○ 音楽芸術表現実技(作曲)②				4			
		○ 楽曲分析特殊講義	4						
		○ 課題研究Ⅰ(修士論文)					2		3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり (左ページ参照)
		○ 課題研究Ⅱ(修士研究)					1※		
		○ 課題研究Ⅲ(修士研究)					1※		
			録音制作特別演習①			2			
			録音制作特別演習②					2	
			室内楽特別演習①			2			
			室内楽特別演習②					2	
		○ ピアノ実技演習①			3				
		○ ピアノ実技演習②						3	
			電子音響制作特別演習			2			
			舞台発声研究(仏語)Ⅰ			1※			
			舞台発声研究(仏語)Ⅱ			1※			
			舞台発声研究(独語)Ⅰ			1※			
			舞台発声研究(独語)Ⅱ			1※			
			学外実習研究①			1			
共通科目		音楽研究法基礎	1※						
		○ 西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究②						1	
			音楽と学術研究Ⅰ			1※			
			音楽と学術研究Ⅱ			1※			
			ビリオド演奏研究Ⅰ			2※			
			ビリオド演奏研究Ⅱ			2※			
		○ 作品研究特殊講義Ⅰ			2※				
		○ 作品研究特殊講義Ⅱ			2※				
		○ 作品研究特殊講義Ⅲ			2※				
		○ 作品研究特殊講義Ⅳ			2※				
		○ 西洋音楽史研究Ⅰ			2※				
		○ 西洋音楽史研究Ⅱ			2※				
		○ 西洋音楽史研究Ⅲ			2※				
		○ 西洋音楽史研究Ⅳ			2※				
		○ 音楽指導論特殊講義			2※				
			音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2※			
			音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2※			
			音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2※			
			音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2※			
			音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2※			
			音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2※			
			音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2※			
			音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2※			
			実践英語研究①			1※			
			実践英語研究②			1※			
			実践伊語研究①			1※			
			実践伊語研究②			1※			
		○ 原典講読研究Ⅰ			2※				
		○ 原典講読研究Ⅱ			2※				
			海外特別研修①			1			
			海外特別研修②					1	
		実践中級日本語研究Ⅰ			3※			指定された者のみ履修可 (6ページ参照)	
		実践中級日本語研究Ⅱ			1※				
		実践中級日本語研究Ⅲ			1※				
		実践中級日本語研究Ⅳ			3※				
		実践中級日本語研究Ⅴ			1※				
		実践中級日本語研究Ⅵ			1※				
		実践上級日本語研究Ⅰ			1※				
		実践上級日本語研究Ⅱ			1※				
		実践上級日本語研究Ⅲ			1※				

音楽芸術表現専攻(指揮)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には

- ・ 指揮に関する実技試験を通して、入学時に比べてより高度な能力を身につけ、すぐれた指揮者として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・ 指揮に関連する広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

指揮の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。

最も重要なのは、徹底した個人レッスンやオペラやオーケストラなどでの実践的な経験を通して、個性を伸ばし、音楽的感性を備えた専門性の高い指揮者となる能力を養うことである。さらに、作品分析や合奏など、指揮に関わる専門分野についても知識と技術を養う。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究を執筆する。

【履修例】

必修(専門)	音楽芸術表現実技(指揮)①	4
	音楽芸術表現実技(指揮)②	4
必修(共通)	音楽研究法基礎	1
	西洋音楽史特殊講義	2
↓		
選択必修(専門)	課題研究Ⅱ	2
↓		
コース選択 (専門)	室内楽特別演習①	2
	室内楽特別演習②	2
	楽曲分析特殊講義	4
	ピアノ実技演習①	3
	ピアノ実技演習②	3
↓		
選択(共通)	学外実習研究①	1
	学外実習研究②	1
	ピリオド演奏研究Ⅰ	2
	作品研究特殊講義Ⅰ	2
	作品研究特殊講義Ⅱ	2
	実践英語研究①	1
実践英語研究②	1	
↓↓↓		
修了要件	32単位以上	37

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ★「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するにあたっては1年次に「音楽研究法基礎」を修得済であることを必須条件とする。詳細は「課題研究の手引き」を参照すること。

【実技試験注意事項】

- ・ 試験課題は毎年度、前期中に掲示にて発表する。

音楽芸術表現専攻(指揮)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
専門科目	○	音楽芸術表現実技(指揮)①	4						3科目のうちどれか1科目 選択必修 ★履修条件あり (左ページ参照)
	○	音楽芸術表現実技(指揮)②				4			
	○	課題研究Ⅰ(修士論文)					2		
	○	課題研究Ⅱ(修士研究)					1※		
		課題研究Ⅲ(修士研究)					1※		
		室内楽特別演習①			2				
		室内楽特別演習②					2		
		合奏特別演習①			2				
		合奏特別演習②					2		
	○	楽曲分析特殊講義			4				
	○	ピアノ実技演習①			3				
	○	ピアノ実技演習②					3		
		舞台発声研究(仏語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(仏語)Ⅱ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅰ			1※				
		舞台発声研究(独語)Ⅱ			1※				
		学外実習研究①			1				
共通科目		音楽研究法基礎	1※						指定された者のみ履修可 (6ページ参照)
	○	西洋音楽史特殊講義	2※						
		学外実習研究②					1		
		音楽と学術研究Ⅰ			1※				
		音楽と学術研究Ⅱ			1※				
		ピリオド演奏研究Ⅰ			2※				
		ピリオド演奏研究Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅰ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅱ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅲ			2※				
	○	作品研究特殊講義Ⅳ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅰ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅱ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅲ			2※				
	○	西洋音楽史研究Ⅳ			2※				
	○	音楽指導論特殊講義			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2※				
		音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2※				
		実践英語研究①			1※				
		実践英語研究②			1※				
		実践伊語研究①			1※				
		実践伊語研究②			1※				
	○	原典講読研究Ⅰ			2※				
	○	原典講読研究Ⅱ			2※				
		海外特別研修①			1				
		海外特別研修②					1		
	実践中級日本語研究Ⅰ			3※					
	実践中級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅲ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅳ			3※					
	実践中級日本語研究Ⅴ			1※					
	実践中級日本語研究Ⅵ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅰ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅱ			1※					
	実践上級日本語研究Ⅲ			1※					

音楽芸術運営専攻(アートマネジメント)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には

- ・ アートマネジメントに関する高度な専門知識が獲得されていることが、修士論文もしくは修士研究の内容、および口頭試問を通して確認されること
- ・ 幅広い国際的な識見と実践・研究能力などが確認され、「芸術文化の確かな担い手」となる実務家や研究者として社会に貢献すると期待できること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

アートマネジメントの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて実践・研究を進める。

最も重要なのは、アートマネジメントの高度な専門的能力と研究能力を養うために主科の専門科目を学び、修士論文完成に向けての研究もしくは修士研究を行うことである。さらに関連諸科目の学修を通して幅広く関連分野の知識を獲得し、実務家や研究者として芸術文化活動を担うための、コミュニケーション能力と実践力を養う。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につける。

【履修例】

	(例1) 舞台制作を中心に研究する	(例2) 文化政策を中心に研究する
必修(専門)	音楽芸術運営特別演習① 4	音楽芸術運営特別演習① 4
	音楽芸術運営特別演習② 4	音楽芸術運営特別演習② 4
必修(共通)	西洋音楽史特殊講義 2	西洋音楽史特殊講義 2
↓		
コース選択必修 (専門)	音楽芸術制作研究 I 2	文化政策研究 I 2
	音楽芸術制作研究 II 2	文化政策研究 II 2
↓		
コース選択 (専門)	文化政策研究 I 2	音楽芸術制作研究 I 2
	音楽芸術環境研究 I 2	音楽芸術環境研究 II 2
	音楽実技(各楽器) I 2	記述統計特殊講義 2
	音楽実技(各楽器) II 2	音楽実技(各楽器) I 2
↓		
選択(共通)	学外実習研究① 1	学外実習研究① 1
	音楽マネジメント特殊講義 I 2	音楽マネジメント特殊講義 I 2
	音楽マネジメント特殊講義 III 2	音楽マネジメント特殊講義 II 2
	音楽マネジメント特殊講義 IV 2	音楽マネジメント特殊講義 III 2
	音楽マネジメント特殊講義 V 2	音楽マネジメント特殊講義 V 2
	音楽マネジメント特殊講義 VI 2	音楽マネジメント特殊講義 VI 2
	実践英語研究① 1	実践英語研究① 1
↓↓↓		
修了要件	32単位以上	32単位以上
	34	34

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。

【修了要件】

- ・ 修士論文： 修士論文を提出。
それに基づいて口頭試問を受ける。
- ・ 修士研究： 舞台芸術作品を創作、上演する。
その上で、その成果を論文にまとめる。

音楽芸術運営専攻(アートマネジメント)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考	
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択		
専門科目		音楽芸術運営特別演習①	4							
		音楽芸術運営特別演習②				4				
		文化政策研究 I		2※					どちらか1セット(2科目)選択必修	
		文化政策研究 II		2※						
		音楽芸術制作研究 I		2※						
		音楽芸術制作研究 II		2※						
		音楽芸術運営基礎演習			1※					
		音楽芸術環境研究 I			2※					
		音楽芸術環境研究 II			2※					
		記述統計特殊講義			2※					
		○ 音楽実技(ピアノ) I			2				これらの科目は2年間に2科目まで履修可。但し、同年次に I と II で同じ楽器の履修は不可。 教職専修免許取得希望者は、ピアノ又は声楽を4単位分修得すること。(ピアノと声楽2単位ずつでもよい)	
		○ 音楽実技(ピアノ) II			2					
		○ 音楽実技(弦管打) I			2					
		○ 音楽実技(弦管打) II			2					
		○ 音楽実技(電子オルガン) I			2					
		○ 音楽実技(電子オルガン) II			2					
		○ 音楽実技(声楽) I			2					
	○ 音楽実技(声楽) II			2						
共通科目		○ 西洋音楽史特殊講義	2※							
		○ 音楽研究法基礎			1※					
		○ 学外実習研究①			1					
		○ 学外実習研究②					1			
		○ 音楽と学術研究 I			1※					
		○ 音楽と学術研究 II			1※					
		○ ビリオド演奏研究 I			2※					
		○ ビリオド演奏研究 II			2※					
		○ 作品研究特殊講義 I			2※					
		○ 作品研究特殊講義 II			2※					
		○ 作品研究特殊講義 III			2※					
		○ 作品研究特殊講義 IV			2※					
		○ 西洋音楽史研究 I			2※					
		○ 西洋音楽史研究 II			2※					
		○ 西洋音楽史研究 III			2※					
		○ 西洋音楽史研究 IV			2※					
		○ 音楽指導論特殊講義			2※					
		○ 音楽芸術と社会特殊講義 I			2※					
		○ 音楽芸術と社会特殊講義 II			2※					
		○ 音楽マネジメント特殊講義 I			2※					
		○ 音楽マネジメント特殊講義 II			2※					
		○ 音楽マネジメント特殊講義 III			2※					
		○ 音楽マネジメント特殊講義 IV			2※					
		○ 音楽マネジメント特殊講義 V			2※					
		○ 音楽マネジメント特殊講義 VI			2※					
		○ 実践英語研究①			1※					
		○ 実践英語研究②			1※					
		○ 実践伊語研究①			1※					
		○ 実践伊語研究②			1※					
		○ 原典講読研究 I			2※					
		○ 原典講読研究 II			2※					
		○ 海外特別研修①			1					
		○ 海外特別研修②					1			
		○ 実践中級日本語研究 I			3※				指定された者のみ履修可(6ページ参照)	
	○ 実践中級日本語研究 II			1※						
	○ 実践中級日本語研究 III			1※						
	○ 実践中級日本語研究 IV			3※						
	○ 実践中級日本語研究 V			1※						
	○ 実践中級日本語研究 VI			1※						
	○ 実践上級日本語研究 I			1※						
	○ 実践上級日本語研究 II			1※						
	○ 実践上級日本語研究 III			1※						

音楽芸術運営専攻(音楽療法)

ディプロマ・ポリシー

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には

- ・ 音楽療法に関する高度な専門的能力と研究能力が獲得されていることが、修士論文の内容および口頭試問、さらに専門科目の実習・試験等を通して確認されること
- ・ 音楽療法関連分野の高度な知識が獲得されていることが試験等を通して確認されること
- ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに、音楽実技の向上が試験等によって確認されること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

カリキュラム・ポリシー

音楽療法の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。

最も重要なのは、音楽療法の高度な専門的能力と研究能力を養うために主科の専門科目を学び、修士論文完成に向けての研究を行うことである。さらに、関連諸科目の学修を通して幅広く関連分野の知識を獲得する。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけると同時に、音楽実技の向上を目指す。

【履修例】

	(例1)実践者を目指す	(例2)研究者を目指す
必修(専門)	音楽芸術運営特別演習① 4 音楽芸術運営特別演習② 4	音楽芸術運営特別演習① 4 音楽芸術運営特別演習② 4
必修(共通)	西洋音楽史特殊講義 2	西洋音楽史特殊講義 2
	↓	↓
コース必修(専門)	音楽療法上級実習 I (総合) 2	音楽療法上級実習 I (総合) 2
	↓	↓
コース選択必修(専門)	音楽療法技能特別演習 I (障がい児) 1 音楽療法技能特別演習 II (医療) 1 音楽療法技能特別演習 III (高齢者) 1 音楽療法技能特別演習 IV (表現技能) 1 保健医療特殊講義 2 高齢者福祉特殊講義 2 障がい児教育特殊講義 2	音楽療法技能特別演習 II (医療) 1 音楽療法技能特別演習 IV (表現技能) 1 保健医療特殊講義 2 高齢者福祉特殊講義 2 障がい児教育特殊講義 2
	↓	↓
コース選択(専門)	音楽療法上級実習 II (障がい児) 2 音楽療法文献講読研究 I 1 音楽療法指導研究 2 記述統計特殊講義 2 音楽実技(各楽器) I 2 音楽実技(各楽器) II 2	音楽療法文献講読研究 I 1 音楽療法文献講読研究 II 1 記述統計特殊講義 2 推測統計特殊講義 2 音楽実技(各楽器) I 2 音楽実技(各楽器) II 2
	↓	↓
選択(共通)	学外実習研究① 1	学外実習研究① 1 実践英語研究① 1 音楽研究法基礎 1 音楽と学術研究 I 1
	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓
修了要件	32単位以上 34	32単位以上 34

【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は半期科目
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること
- ・ 教職専修免許状取得希望者は、教職欄に○が付いている科目を24単位以上修得すること。
- ・ 日本音楽療法学会認定音楽療法士の資格取得希望者は、26ページの認定音楽療法士資格取得科目(修了要件外)を必要に応じて履修すること。

【実技試験注意事項】音楽実技(各楽器) I・II

- <声楽>
 - 1年次 自由曲1曲及び日本歌曲1曲(6分以内)
 - 2年次 自由曲1曲及び日本歌曲1曲(8分以内)
- <ピアノ>
 - その都度掲示にて発表。
- <弦・管・打楽器>
 - 1・2年次 自由曲(5分間)

音楽芸術運営専攻(音楽療法)

科目区分	教職	科目名	1年次			2年次			備考	
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択		
専門科目		音楽芸術運営特別演習①	4							
		音楽芸術運営特別演習②				4				
		音楽療法上級実習Ⅰ(総合)	2							
		音楽療法技能特別演習Ⅰ(障がい児)		1※					4科目の中から1科目選択必修	
		音楽療法技能特別演習Ⅱ(医療)		1※						
		音楽療法技能特別演習Ⅲ(高齢者)		1※						
		音楽療法技能特別演習Ⅳ(表現技能)		1※						
		保健医療特殊講義		2※					3科目の中から1科目選択必修	
		高齢者福祉特殊講義		2※						
		障がい児教育特殊講義		2※						
		音楽療法文献講読研究Ⅰ		1※					2科目の中から1科目選択必修	
		音楽療法文献講読研究Ⅱ		1※						
		音楽療法上級実習Ⅱ(障がい児)			2					
		音楽療法上級実習Ⅲ(医療)			2					
		音楽療法上級実習Ⅳ(高齢者)			2					
		音楽療法指導研究					2			
		記述統計特殊講義			2※					
		推測統計特殊講義			2※					
		○音楽実技(ピアノ)Ⅰ			2				これらの科目は2年間に2科目まで履修可。但し、同年次にⅠとⅡで同じ楽器の履修は不可。 教職専修免許取得希望者は、ピアノ又は声楽を4単位分修得すること。(ピアノと声楽2単位ずつでもよい)	
		○音楽実技(ピアノ)Ⅱ			2					
	音楽実技(弦管打)Ⅰ			2						
	音楽実技(弦管打)Ⅱ			2						
	音楽実技(電子オルガン)Ⅰ			2						
	音楽実技(電子オルガン)Ⅱ			2						
	○音楽実技(声楽)Ⅰ			2						
	○音楽実技(声楽)Ⅱ			2						
共通科目		○西洋音楽史特殊講義	2※							
		音楽研究法基礎			1※					
		学外実習研究①			1					
		学外実習研究②					1			
		音楽と学術研究Ⅰ			1※					
		音楽と学術研究Ⅱ			1※					
		ピリオド演奏研究Ⅰ			2※					
		ピリオド演奏研究Ⅱ			2※					
		○作品研究特殊講義Ⅰ			2※					
		○作品研究特殊講義Ⅱ			2※					
		○作品研究特殊講義Ⅲ			2※					
		○作品研究特殊講義Ⅳ			2※					
		○西洋音楽史研究Ⅰ			2※					
		○西洋音楽史研究Ⅱ			2※					
		○西洋音楽史研究Ⅲ			2※					
		○西洋音楽史研究Ⅳ			2※					
		○音楽指導論特殊講義			2※					
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2※					
		音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2※					
		音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2※					
		音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2※					
		音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2※					
		音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2※					
		音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2※					
		音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2※					
		実践英語研究①			1※					
		実践英語研究②			1※					
		実践伊語研究①			1※					
		実践伊語研究②			1※					
		○原典講読研究Ⅰ			2※					
		○原典講読研究Ⅱ			2※					
		海外特別研修①			1					
		海外特別研修②					1			
		実践中級日本語研究Ⅰ			3※				指定された者のみ履修可 (6ページ参照)	
	実践中級日本語研究Ⅱ			1※						
	実践中級日本語研究Ⅲ			1※						
	実践中級日本語研究Ⅳ			3※						
	実践中級日本語研究Ⅴ			1※						
	実践中級日本語研究Ⅵ			1※						
	実践上級日本語研究Ⅰ			1※						
	実践上級日本語研究Ⅱ			1※						
	実践上級日本語研究Ⅲ			1※						

認定音楽療法士(補)資格取得科目(修了要件外)

専攻	日本音楽療法学会認定 音楽療法士(補)資格取得開設科目	1年次 選択
音楽療法	音楽療法技能特別演習 V	1
	音楽療法技能特別演習 VI	1
	音楽療法技能特別演習 VII	1
	音楽療法技能特別演習 VIII	1
	音楽療法技能特別演習 IX	1
	音楽療法技能特別演習 X	1
	音楽療法上級実習 V	2
	音楽療法上級実習 VI	2
	音楽療法特殊講義 I	2
	音楽療法特殊講義 II	2
	音楽療法特殊講義 III	2
	音楽療法特殊講義 IV	2
	音楽療法特殊講義 V	2
	音楽療法特殊講義 VI	2
	医学特殊講義 I	2
	医学特殊講義 II	2
	医学特殊講義 III	2
	心理学(系)特殊講義 I	2
	心理学(系)特殊講義 II	2
	心理学(系)特殊講義 III	2
	心理学(系)特殊講義 IV	2
	心理学(系)特殊講義 V	2
	社会福祉特殊講義 I	2
	社会福祉特殊講義 II	2
	音楽実技 III	2
	音楽実技演習 I	2
	音楽実技演習 II	2
	音楽実技演習 III	2
	音楽理論特別演習 I	2
	音楽理論特別演習 II	2
	音楽理論特殊講義 I	2
	音楽理論特殊講義 II	2
	音楽理論特殊講義 III	2
	音楽理論特殊講義 IV	2

※ 認定音楽療法士(補)資格取得科目(修了要件外)は、音楽芸術運営専攻(音楽療法)の者のみが履修できる。
履修相談後に、履修する科目を決定すること。